

在日米軍再編に伴う横田基地の 態様の変化についてのお知らせ(その2)

<p>問5 航空機騒音の状況・どこの基地から来るのか(続き)</p>	<p>●横田飛行場への往来があり得る、CH-47 J等のヘリや、U-4やT-4、またC-130H等の輸送機等は、入間(埼玉)基地を始め、全国の空自基地に配備されており、一概に限定して示すことはできないが、CH-47J、U-4、T-4、輸送機の配備状況は以下のとおり。 CH-47J三沢(青森)、入間(埼玉)、福岡(福岡)、那覇(沖縄)(以上空自)、霞ヶ浦(茨城)、相馬原(群馬)、明野(三重)、熊本(熊本)(以上陸自) U-4入間(埼玉) T-4千歳(北海道)、三沢(青森)、松島(宮城)</p>	<p>ご意見を募集します 【2月28日(消印有効)までにお願ひします】 市は、在日米軍再編に伴う横田基地の態様の変化についての意見を募集しています。ご意見はEメール、郵送、または、ファクシミリでお寄せください。 <input type="checkbox"/> Eメール 市のホームページのトップページ左側の「市民のご意見箱」から必ず本文の冒頭に「横田基地について」と明記してお送りください。 <input type="checkbox"/> 郵送 〒197-8501 福生市本町5番地、福生市企画財政部秘書広報課基地・渉外担当へ。 <input type="checkbox"/> ファクシミリ FAX553・4451 ※ご意見には、住所・氏名・年齢のご記入をお願いします。</p>	<p>問合せ 秘書広報課基地・渉外担当 広報ふっさ2月1日号でお知らせした、在日米軍再編に伴う横田基地の態様の変化についての回答が1月31日に国から正式にありましたので、お知らせします。 在日米軍再編問題については、現在も日米間で協議中ですが、今後新たな情報が変わり次第、ホームページなどでお知らせしていきます。</p>
<p>平均飛来回数ほどのくらいか</p>	<p>●横田飛行場における自衛隊航空機の運用については、ご質問の飛来回数を含め、現時点で具体的に申し上げられる段階にないが、今後、適宜、地元自治体等にご説明してまいります。 参考空自航空総隊司令部所属の隊員が、平成17年の1年間に空自の航空機を利用して移動した回数は約400回。(注1)この数字は、総隊司令官以下の総隊司令部所属隊員が、出張等のために、入間基地等から空自の航空機(連絡機、輸送機、ヘリコプター等を含む。)に搭乗して移動した回数の統計概算値。「延べ回数」であり、例えば5人の隊員が同時に1機の航空機で出張した場合は、1回にカウント。また、あくまで現状の府中基地にある総隊司令部における過去の実績であり、将来の横田基地における空自航空機の飛来回数を予測するものではない。</p>		
<p>飛来する航空機と機種ごとの最高音圧レベルは</p>	<p>●平成15年度から16年度にかけて実施した横田飛行場での騒音度調査の際測定した結果によると、滑走路北端から約700m北側の飛行経路直下の地点における離陸時の騒音レベルは、C-130(自衛隊機と同型の米軍機)が約94dBであったのに対し、C-1(自衛隊機)は約97dBであった。また、同地点におけるT-4(自衛隊機)の騒音レベルを、新田原飛行場における騒音度調査結果等から算定すると約95dBである。なお、U-4についてはT-4より騒音レベルは低いと考えられるが、現在お示しできるデータがない。</p>	<p>共同統合運用調整所</p> <p>問1 共同統合運用調整所の設置に伴い、在日米軍及び自衛隊の役割・任務・装備・人員及び規模。また、その設置時期はどのようになるか</p> <p>関連自治体からの質問</p> <p>共同統合運用調整所とミサイル防衛システム防衛との関連性は</p>	<p>東京防衛施設局からの回答</p> <p>●共同統合運用調整所は、情報共有などを通じて自衛隊と米軍との司令部間の連携向上を図ることを目的としているが、その具体的な組織、人員等については、今後日米間の調整を加速化していく考えである。 ●共同統合運用調整所の具体的な施設規模、使用開始時期、地下室の有無等については、今後検討することとしており、日米間の調整を加速化していく考えである。 ●その間、米軍との協議の状況について、適宜、地元自治体等にご説明し、ご理解とご協力が得られるよう最大の努力をしてみたい。</p> <p>●現在、横田飛行場には米第5空軍司令部が所在するが、我が国の防空を任務とするほか、我が国のミサイル防衛において統合の司令部として機能することが予想されている空自航空総隊司令部の移駐は、防空やミサイル防衛などにおける日米の司令部間の連携向上や相互運用性の向上に資するものであると考える。 ●共同統合運用調整所の詳細については、中間報告においても、「共同統合運用調整所を通じて関連するセンサー情報が共有される。」とあるとおり、ミサイル防衛に関連する日米の司令部間の連携や相互運用性の向上に資する観点から、今後日米間で検討・調整を進めたい。</p>
<p>飛来する自衛隊航空機の機種毎の過去の事故等の状況はどうなっているのか</p>	<p>●本日までの間に発生した事故(人員の死亡若しくは重傷又は機体の破壊若しくは大破を伴ったものに限る。)は7件であり、概要は以下のとおり。 CH-47J型機(なし) U-4型機(なし) T-4型機【H3. 3. 12】航法訓練を終了し場周経路進入のための待機中に浜松基地南東15マイル付近で消息を絶ち海没(航空機1機が破壊、搭乗員2名が死亡) 【H3. 7. 1】天候偵察のため飛行中に三沢基地北東94マイル付近で消息を絶ち海没(航空機1機が破壊、搭乗員2名が死亡) 【H12. 7. 4】展示飛行訓練を終了して松島飛行場への帰投中に松島飛行場から111度14マイル付近で墜落(航空機2機が破壊、搭乗員3名が死亡) C-130H型機(なし) C-1型機【S58. 4. 19】編隊機動訓練中2機が三重県鳥羽市菅島町の山腹に激突(航空機2機破壊、搭乗員14名が死亡) 【S61. 2. 18】入間飛行場から離陸中、失速し、接地・かく座(航空機1機が破壊) 【H8. 12. 17】模擬物量投下訓練中に山口県角島沖で航空機から空中輸送員1名が海上に落下(空中輸送員1名が死亡) 【H12. 6. 28】定期整備終了後における整備飛行の失速検査を実施中に美保飛行場から345度65マイル付近で墜落(航空機1機が破壊、搭乗員5名が死亡)</p>		
<p>府中基地に対する苦情の内容と件数は</p>	<p>●今年度の主な苦情は、ヘリコプターの離着陸に伴う騒音に対するものが2件であった。</p>	<p>自衛隊航空総隊の横田への移駐</p> <p>福生市からの質問</p> <p>問2 横田基地に移駐する航空総隊の組織・任務・規模・装備及び移動時期はどのようになるか</p> <p>問3 関連部隊の規模・役割はどのようなものか</p> <p>問4 新たな任務はあるか(ミサイル防衛システム等)</p> <p>問5 航空機騒音の状況・どこの基地から来るのか</p>	<p>●横田飛行場への移駐を考えているのは、空自航空総隊司令部の他、この司令部と併せて置かれるべき機能を有する空自航空総隊隷下の作戦情報隊、防空指揮群が考えられるが、現在のところ、確定しているものではない。参考までに申し上げます、現在、府中市に所在する空自航空総隊司令部、作戦情報隊(一部)、及び防空指揮群の人員は約600名である。 ●空自航空総隊司令部の移駐の時期、運用開始時期について具体的に申し上げられる段階にないが、日本側としては、可能な限り早期に移駐と運用開始を実現すべく米側と協議を行っていく考えであり、その協議の状況について、適宜、地元自治体等にご説明し、ご理解とご協力が得られるよう最大の努力をしてみたい。</p> <p>●基本的には、府中基地に所在する空自航空総隊司令部、空自航空支援集団司令部などの部隊のうち、航空総隊司令部について、そのすべてが移駐することを考えているが、現時点で移駐する詳細な要員の数等について具体的に申し上げられる段階にはない。 ●防空指揮群は、群本部、指揮所運用隊、通信電子隊及び基地業務隊の4つの部隊から構成(約320名)され、防空情報の収集・伝達や、それらに必要な機器の整備等を任務としている。</p> <p>●空自航空総隊は我が国の防空を主任務としており、司令部は、防空作戦を始めとするさまざまな航空作戦の指揮統制を担うほか、我が国のミサイル防衛における統合司令部としての機能も保持させる計画である。</p> <p>●横田飛行場への空自航空総隊司令部の移駐に当たり、空自航空総隊司令部所属の航空機部隊の常駐は想定されていないが、司令官をはじめとする自衛隊員の移動などのためのCH-47J等のヘリ、U-4やT-4、またC-130H等の輸送機等の往来はあり得ると考える。</p>
<p>航空総隊の移駐による影響</p>	<p>●空自航空総隊司令部の移駐自体による実動の日米共同訓練の増加は計画していない。 ●空自航空総隊司令部所属の航空機部隊の常駐は想定していないが、横田飛行場への空自航空総隊司令部の移駐に当たり、司令官をはじめとする自衛隊員の移動などのためのCH-47Jなどのヘリや、U-4やT-4、またC-130Hなどの輸送機等の往来はあり得る。</p> <p>共同統合運用調整所の設置に伴い、現在の横田基地の米軍の人員、規模に大幅な変動が起こることはないものと承知している。</p>		

関連自治体＝横田基地関連の自治体